

2026.2.25

# 持続可能な在り方を探れ

ミラノ・コルティナ<sup>①</sup>冬季五輪が閉幕した。90以上の国と地域から約2900人が参加し、競技を通して人間の持つ可能性を表現した。

今大会では、地元の負担を分散・軽減するために四つの会場群に分かれる広域開催が試みられた。史上初めて複数の都市名を冠した五輪は、今後の試金石となる。国際オリンピック委員会（IOC）のゴベントリ―会長は「人々の期待を超えた」と成功を強調するが、重要なのは検証作業である。参加各国が協調し、改善点を洗い出してほしい。

冬季五輪は、巨額の財政負担に加え、地球温暖化による開催地の減少などの課題に直面している。

今大会は招致段階から分散開催を想定し、既存の競技施設の活用などで経費削減を図った。選手や関係者の移動などの懸念はあったものの、

大きな混乱はなかった。4カ所の開会式で同時に行進するなど、選手の一体感を保つ工夫が見られた。次回以降の参考にすべきだろう。

気候変動の影響はより深刻だ。今回は都市部と山岳部に分かれ、競技は従来通りに実施できた。しかしIOC総会での報告によれば、冬季五輪が開催可能な国は現状15カ国のみで、2040年には10カ国にまで減るといふ。大会が存続の危機にある事実を、温室効果ガスの大量排出国は重く受け止める必要がある。

国連総会で採択された休戦協定が守られず、会期中も戦火が続いたのは残念だった。平和の祭典の理念で世界を包むことはできなかった。

ウクライナ侵攻後の **A** などは国としての参加が禁じられている。一方、パレスチナ自治区ガザに攻撃する **B** やベネズエラで軍事

作戦をした **C** には処分がない。これは「二重基準」だとの批判は根強い。ロシアの攻撃で死亡した選手の顔を描いたヘルメットを着用し、失格になったウクライナ選手の問題でも賛否が起こった。IOCには議論を深め、見解を示す責務がある。

日本は金5、銀7、銅12の史上最多となる計24個のメダルを手にした。前回北京大会の18個を超える成績は称賛に値する。兵庫ではフィギュアスケート・ペアの三浦璃来選手、宝塚市出身、木原龍一選手が金メダル、フィギュア女子の坂本花織選手、神戸市出身、銀メダルに輝いた。表彰台に届かなかった選手も含め、努力と活躍に賛辞を贈りたい。

フランス・アルプス地域を舞台にする次回30年大会も、2地域圏、四つの会場群で実施される予定だ。スピードスケートは国外での開催も検討され、さらに広域化する可能性もある。IOCは選手の声にも耳を傾け、持続可能な冬季五輪の在り方を探らねばならない。

上の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 傍線部①冬季五輪の課題は何ですか。本文中から25字で抜き出し最初と最後の3文字を書きましょう。～

2 傍線部②の意味を次の中から選んで、記号で書きましょう。

- ㉠長く残る偉大な業績 ㉡これからの基準になるような事柄  
㉢成功を確実なものにするためのよい前例  
㉣物事の価値を見きわめる試験になるような事柄

3 空欄A～Cに入る国名を書きましょう。

A	B	C
---	---	---

## NIEワークシートのこたえ（2026年2月25日公開）

### ◆ワークシート「ミラノ五輪閉幕(社会)」 2026.2.25付 朝刊 9面 解答

1 巨額の～の減少

2 ㊦

3 A ロシア B イスラエル C 米国(アメリカ)